

ビンワン[®] 1キログラム粒剤

■種類名：オキサジクロメホン・テフリトリオン・プロモブチド粒剤
 ■有効成分：オキサジクロメホン-----0.80%
 テフリトリオン-----3.0%
 プロモブチド-----9.0%

■登録番号：第23997号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2017.11.22
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：3年
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- ホタルイ、オモダカ、アゼナをはじめとするSU剤抵抗性雑草に高い効果を示す。
- ノビエの発生を長期間抑える。
- クサネム、イボクサ等の特殊雑草に高い効果を示す。

【適用内容】(2018年10月末日現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 杆サ [®] 加林 [®] を含む農薬の総使用回数 | テフリトリオンを含む農薬の総使用回数 | プロモブチドを含む農薬の総使用回数 |
|------|--|---------------------------------------|-------------|---------|-------------------------------------|---|--------------------|-------------------|
| 移植水稲 | 水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ クログワイ オモダカ | 移植後5日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで | 1kg /10a | 1回 | 湛水散布 又は 無人ヘリコプター による 散布 | 2回以内 | 2回以内 | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは2葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ウリカワは1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、クログワイ、オモダカは発生始期までが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一になるよう、代かき、均平化及び植付け作業は丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用をさけること。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピナ)の回転数を低速に調整すること。
 - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にしてお使いすること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の処置を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。